

仁科文秀議員

笠岡市定住促進ビジョンについて

議員 定住促進センターは、時限的な特命組織として、平成23年度までの活動となる。しかし、今後とも力を弱めることなく、継続して推進していくことが極めて大切だと考える。どのような対処するのか。

市長 定住促進センターは、平成21年度から定住促進事業に着手し、実績を上げつつあると考えている。定住促進を強力に、そして戦略的に推進していくために、この体制を継続していくことも考えられる。当面は、



定住促進センター

定住促進ビジョンに掲げた事業に全力を尽くし、その成果を踏まえつつ、継続して推進していくためのあり方を判断していきたいと考えている。

地域と行政の協働によるまちづくりについて

議員 ①「笠岡市地縁組織との協働システム構築計画」

には、協働で取り組む方向性や形が示されている。しかし、いざ地域が一步を踏み出そうとすると、どう進めたらいいか不安である。

地域に担当者が入る、手引書を作るなど、不安解消のための方法を考えているのか。

②行政として、現時点での市内各地区の問題をつかんでおく必要があるのではないか。

市長 ①地域担当職員は、地域の方からいろいろな質問をいただくと考えられるので、今までにあった質問や意見等をQ&Aの形に取りまとめ、また、具体論を取りまとめ質問の手引書

を作成し、職員への研修会や説明会を予定している。

②地域の会議で説明をしてほしいとの要望もたくさんいただいております。順次実施していく中で、地域の課題の把握もできてくるのではないかと考えている。

また、声のかからない地域には、こちらから働きかけ、ともに進めていこうという考え方で各地区に出向いて行って状況把握に努めていきたい。

樋之津倫子議員

子どもの医療費給付制度の対象年齢拡大を求めて

議員 岡山県は今年の10月から、入院に限ってだが、小学校卒業まで子どもの医療費の無料化を実施の予定である。若いお父さんやお母さん方が安心して子育てできるように、小学校卒業まで、子どもの医療費無料化制度の対象年齢を拡大すべきだと思うがどうか。



市長 本市としても本年10月から、入院のみ中学卒業まで引き上げをする準備を担当へ指示している。

議員 入院に限らず、通院にもあと3年の年齢拡大を強く訴えたいが、どうか。

市長 現時点では、小学校を卒業するまでという考えはない。

無縁社会、無縁者対策についての市の取り組みを求めて

議員 本市でも数は少ないが、孤独死の実態があり、独居老人の世帯が増加している。無縁社会、無縁者対策についての市の考え、取り組みについてたずねる。

市長 民生委員、児童委員の役割は、今後ますます重要なものとなっていく。ひとり暮らしの高齢者などの把握と訪問活動をお願いし、実態把握に努めたい。

来年度全国一斉学力テストについて

議員 2007年から3回にわたって実施された全国学力テストだが、さまざまな団体・有識者から「点数の競争で、教育をゆがめる一方、子どもの学力向上には役立たないことがはつきりした」と総括されている。政府は、来年度から全員参加をやめ、抽出方式で行うことにしている。本市はどうするのか。

教育長 市としては、市内全体の状況を把握するためにも、来年度、抽出校以外にも実施するという方向で決定している。その後、平成23年度に県独自のものが実施されたら、それ一本に絞っていきたいと考えている。